



1400年前というと奈良時代の前の大和時代、そう聖徳太子の時代です。

韓国、中国などの国から多くの人達が日本(まだ倭国と言われた時代です)に渡来していたのです。そしていろいろな文化(特に文字)や文物、仏教や技術などを伝えて素晴らしい国際交流が行われていました。まさにわが国の第一次ルネッサンスの時代でした。

大阪は渡来人たちから伝授された文化や技術によって産業が発達し、従来の持っていたものと融合しさらに発展して、文化や経済そして技術革命などあらゆる面において国際交流の中心でした。

「四天王寺ワツソ」は、はるか1400年の昔に渡来した人達との国際交流を現在に再現させた歴史絵巻、毎年秋に行われる京都の「時代祭」に匹敵するものです。

11月1日、会場の難波宮跡で開催準備のお手伝いをしました。と言ってもお手伝いするほどの事もなかったのですが、多くの人達が TENT を張ったり、巡行する数艘の舟を搬送したり、舞台を造営したり本当に大変な準備でした。

お天気を祈りながら帰宅したのですが、翌朝早くに中止が決まり、大阪国際交流センターでの屋内開催になりました。

開催当日、ボランティア仲間の高田さんと私は9時すぎ会場に集合、出演者の皆さんの着付けのお手伝いをしました。男性のボランティアは警備の仕事がメインでしたが、屋内なのでお客さんの誘導のお手伝いです。



左側 筆者

着付けは大学生、高校生そして一般参加の方でした。もうみなさん代々経験しているので上手に自分たちで着て、補助するだけでした。でも、それぞれの時代の衣装を箱に区別して入れたり小物のチェックや確認などで、入っているものが入っていなかったり慌てることもありましたが、それでも皆さんを送り出した後、そっと会場の後ろから舞台を見せていただいて、はるか昔の歴史絵巻に思いをはせることができました。

以前、「小さなことからコツコツと」とおっしゃった方がいましたが、本当にこのような積み重ねが国と国との関係を良くしていく一歩になるのではと、改めて歴史の持つ意味や大切さを思わせる一日になりました。来年は皆さんも一度是非、足を運んでみてください。